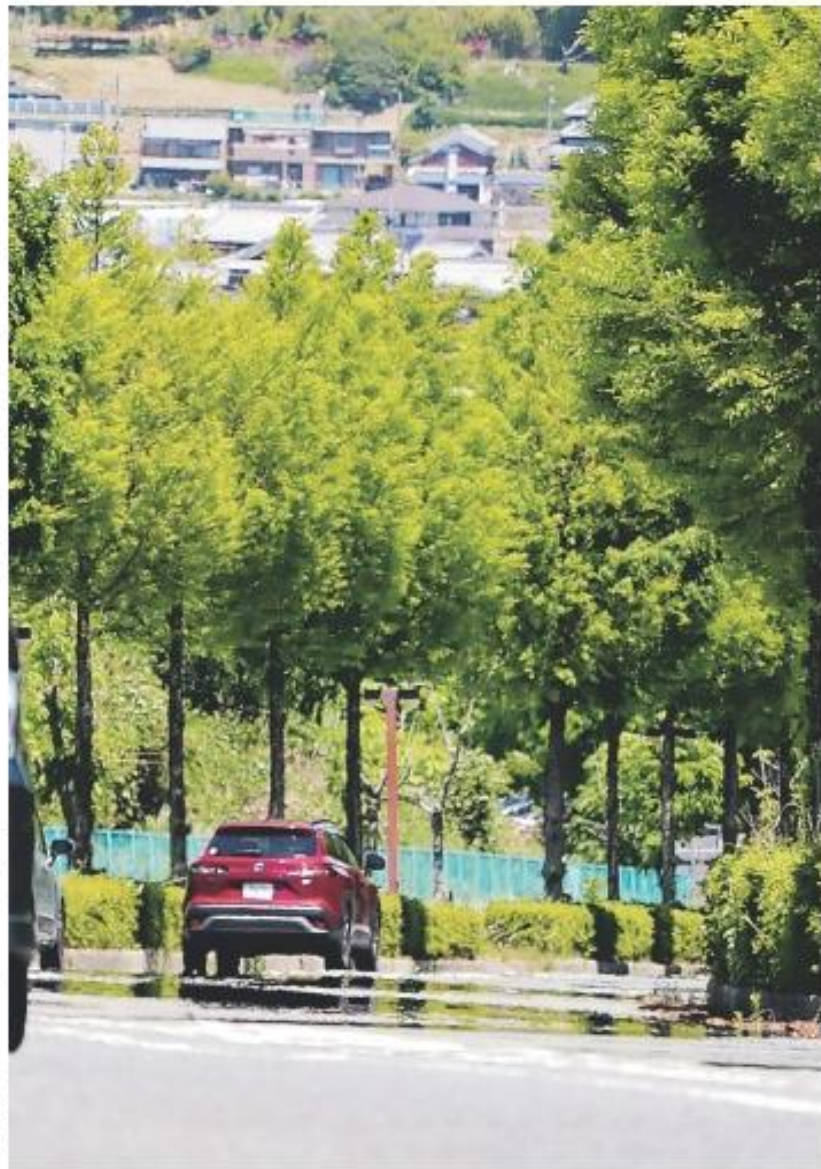


「逃げ水」ゆらゆら

市内、2日連続の真夏日

5月の史上最高気温記録

県内はここ数日、高気圧に覆われ気温が上昇し、三田市では18日、5月の観測史上最高となる31.9度を記録した。19日も30.3度と7月中旬並みまで上がり、2日連続の真夏日に。市内各地の路面には、遠く



熱せられた道路で、水たまりがあるような「逃げ水」の現象が見られた＝19日午後、三田市けやき台6から

見える蜃気楼の一種「逃げ水」が出現。帽子や日傘を使って厳しい日差しを避ける人が目立った。気象庁のデータによると

三田では、最高気温が25.7度だった今月11日以降、25度以上を観測する日が続いている。ただし、真夏日となった18日の最低気温は8.9度で、引き続き寒暖差は激しい。

部は20日以降は曇り空が広がり、雨が降る日もある見込み。神戸の2週間気温予報では、20日以降は平年並みとなり暑さは和らぎそうだが、23日以降、再び平年より高い日が続くとしている。

（山本 晃）

左の記事を読んで、次の問いに答えましょう。

1 1日の最高気温が30度以上の日を何と言いますか。本文中から抜き出して答えましょう。
[]

2 「逃げ水」について説明する次の文章の[]に入る本文中の語句を書きましょう。

「逃げ水」とは[①]の一種で、よく晴れた暑い日に熱せられたアスファルトの道路などで、遠くに[②]が見える現象のことである。近づくとそこにはなく、先のほうに[②]が見える。

3 []内の語句のうち正しいものを選んで○で囲み、「逃げ水」の原理を説明する文章を完成させましょう。

道路が熱せられると、地表近くの空気は非常に[高温・低温]になって密度が小さくなり、その上にある[暖かい・冷たい]空気との間に温度差（密度差）が生まれ、光が[屈折・発光]する。

水に見えるのは、実は地面に反射した[空・海]の像である。

4 5月18日の三田市の、1日の最高気温と最低気温の差は何度だったでしょう。
[]度

